

学校事務の活性化と教育経営

# 二十一世紀の情報発信源へ向けて

鹿児島県立串木野養護学校事務主査

寺園二恵

## 事務ネット発信

マルチメディア、インターネット等パソコン環境はめまぐるしく変化している。大学・民間企業・自治体ではインターネットにアクセスして、独自のホームページを開き、いろいろな情報を紹介したり、情報の共有化を図る為インターネット技術をイントラネットとして導入している企業・大学もある。

本県公立学校事務職員協会は、パソコン通信ホスト局を開設し、平成八年一月から本格稼働。四月からは、どの学校でもアクセスできる状態になった。ボード設計は、掲示板・Q&A・会議室・チャット・ソフト・データライブラリー・電子メール。掲示板は、協会の専門部単位である。

しかし、二回線の運用で、さらに一回あたり十五分に制限しており、アクセスする各学校も普段の学校用外線電話に加えて、ファックスまで同じ回線では、いつでも簡単にパソコン通信できる現状ではない。ホスト局がにぎやかになると、開局までの苦勞が吹き飛ぶのであるが、通信に不慣れなせい、仕事の忙しさのせい、あるいは便利さがいまいとつ行き渡ってないせい、なかなかアクセスがなく寂しい限りである。

ニイフティ・PCバン等有料のBBSに加入している学校は皆無であろうし、インターネットにアクセスしているのは個人でもわずかである。

## BBSもいいのよ(Bulletin Board Service)

ちょうどインターネットという膨大な通信網が世界中にはりめぐらされて、ちまたのBBSも少しずつ静かになりつつある時期に完成したので、遅かったなと感じるところではある。しかし、インターネットに比べて簡単にアクセスできる長所がある。インターネットは情報公開されたもので、世界のだれかが常にアクセスしている訳である。さらにほとんどがテキストファイルでつながれているので、バイナリファイル(いろいろなソフトとか圧縮したデータファイル)の送信は非常にめんどろで時間と料金がかる。

その点小さいネットでも簡単にそのままアップロード(電話回線を通じてプログラムその他をホスト局に転送すること)・ダウンロード(逆にホスト局から自分のパソコンに転送すること)できるBBSは便利である。例えば、急いで調査資料を配布しなければならぬ時、新しくワープロで作成するとしても、ファックスで様式を取り寄せたとしても、大分手間がかかる。他の学校へ電

話で依頼、メール送信でアップしてもらえば、ダウンロード即プリンターで印刷でき、ものの五分もあれば十分である。

私がパソコンをさわり始めた十数年前は「ソフトなければただの箱」といわれ、漢字の辞書もなくコード表で番号を調べ、一字一句キーボードから入力して、カセットテープに保存していた。今では市販ソフト・フリーソフトと数限りなく、互換性を通り越し、メーカー・パソコン・ワープロにこだわらず、テキストコンバータで簡単に読み書きできるようになった。

そして初心者でも、ウィンドウズ環境のハード・ソフトを揃えてケーブルをつなぎ、スイッチをいれるだけで通信は簡単にできる。あとはどういう内容にどのソフトを使い、データをどこから引き出し、どこにデータを保存し、どの方法で送るか。ということになってくる。つまり、毎日パソコンをさわり通信に慣れることである。

### 夢を大きく

これからの課題は通信網の確保(電話回線増)とパソコンのハード・ソフト両方の最新化である。備品管理は耐用年数が問われ、五年・種類によっては十年経過しない以上は更新できない。パソコンは、次々開発され規格だけでなくOSまで毎年のように入れ替わる。全ての学校が常に最新のパソコン環境を維持できるようになれば非常にすばらしいことである。これが夢ではなく、近い将来現実化されることを声を大にして望む。

何回研修を進めても、研修したパソコンと学校で使っているパソコンのハード・ソフトが少しでも違っていると初心者はわからない。せっかくの研修も水の泡である。パソコン環境が同一であれ

ば、研修のテキストも一元化できるし、事務処理オリジナルソフトもプリンター・機種毎に作り変える必要がなくなってくるのである。転動しても抵抗なく、すんなりパソコンで仕事ができる。

子どもでもパソコン通信している時代。学校の情報源として、インターネットを通じて事務室からいろいろな情報を全国の学校へ送り、さらに新しい情報を吸収して、地方は遅れているとか、過疎地だからという時代はもうなくなる。パソコンをうまく使いこなし、学校のパソコンリーダーとして校内LANの開発、あるいは地域のネットワーク作りへのボランティア参加等、すばらしい情報インフラが次々とできる。

### 学校文化の発信基地として情報源がつながると

いじめ、校内暴力、中途退学等、学校では必要な情報の不足に悩んでいる。全国の小・中・高さらに大学・企業がパソコン通信網でつながれると、データベース作りが簡単であり、将来のビジョンをパソコン上で描き交換し合うことが可能になってくる。十年後の高校生の人員予測。県外に転勤、通学できる高校はどこか、学校紹介等で生徒の進路希望に合った学校・転校試験等の有無を検索できる。企業の求人情報等パソコン通信だからこそ情報の検索が簡単である。

リアルタイムに確実な情報を文字で送受信できる電子メールをインターネットに送ると、世界各国から反応があり、親切なわかりやすいメッセージが届く。すばらしい国境を越えたコミュニケーションの始まりである。

二十一世紀のマルチメディアネットワーク・パソコン通信に、もっと気軽にチャレンジし、学校文化の発信基地としようではありませんか。